

実践的指導力習得研修の報告

理科 杉本 裕司

1 はじめに

今年度は校外研修としてⅠ期、Ⅱ期を受講し、校内研修においては研究授業をはじめとする種々の研修を受講した。本報告書では、それらに対する反省と次年度への目標を報告する。

2 研修報告

① 校内研修

今年度の校内研修はどれも実りあるものだったが、以下に記述する百問繚乱、研究授業、及びICTに関する研修は今後仕事を良く行う上で極めて重要なものとなるだろうと感じた。

(1) 百問繚乱

採点業務は紙面でおこなうと時間がかかる上に、日を跨げば採点基準がぶれる危険性を伴う。百問繚乱はこれらの問題を解消することができる。特に、一つの問題に対する全員の答案を画面に表示し、そのまま採点できるシステムは採点基準がぶれにくいという点で効率的である。また、採点データをそのまま返却することができる。それ故、作業効率が飛躍的に上がったといえる。

(2) 研究授業

研究授業後の研修会において「一つ一つ区切って話す」ものと「蓄積させて最後にストンと落とす」ものの、二つのスタイルがあることを教えて頂いた。私は前者で話をしていたつもりであったが、聴講者からすると後者の様に見えるという指摘をいただき、自身の授業スタイルの反省と確立が急務であると痛感した。

(3) ICT 研修

今年度は外部講師の方からICTに関する研修を受ける機会があった。講師の話はどれも実りの多いものだったが、特に授業を行う傍ら、もし躓く部分があれば、個々の生徒が以前の授業を撮影した動画で復習できるスタイルは画期的であるように思えた。まさに「個別最適な学び」であると感じる一方、動画を見ている間は授業を聞けないことなるので次の授業の時にも同じ状況になり、結局授業に復帰できなくなるのではないかと危惧した。今後、どのようにしてこの手法を取り入れるか、熟考する必要がある。

② センター研修

センター研修では①(2)の研究授業を受けて振り返りを行う講座があった。参加して頂いた先生方から貴重なコメントを頂いたが、全ての意見を俯瞰で見ると詰め込みすぎを指摘されている様に思えた。これは初任者研修での研究授業でも感じていたことであり、そこから改善したつもりではあったが、まだ改善の余地があることを教えて頂いた。また、協議の際 FigJam を用いたが、とても使い勝手が良く、授業でも活用していければと思う。

3 おわりに

教員という仕事を始めて2年目が終わろうとしているが、まだ慣れない部分が多い。今年度は授業改善に力を入れてきたつもりだが、それでもまだ改善点が多々ある状態である。次年度は上述の学びと反省を活かして、授業に臨みたい。